



特集 九十九島動植物園 森きらら

命をつなぎます 守ります

50年以上の歴史を持ち、市民に親しまれてきた「九十九島動植物園 森きらら」。4月から指定管理に移行し、新しい一歩を踏み出しました。今回の特集では、飼育員や新園長に話を聞き、同園の命をつなぐ取り組みや新しい見どころなどについてお知らせします。

はじめて生まれたかわいい赤ちゃん

ツシマヤマネコ担当飼育員 村山 友美

「もともと希少動物の繁殖に興味がありました」と話す村山さんは、このツシマヤマネコを担当して6年目。ツシマヤマネコの繁殖に強い思い入れがあり、とてもやりがいを感じています。

繁殖について工夫していることを尋ねると「まずは自分に慣れてもらうことを心掛けています」と村山さん。普段から

コミュニケーションをよく取り、人慣れするように接すること、ツシマヤマネコが人間を気にせずに繁殖に専念できるような環境づくりを目指しています。

昨年、佐世保で初めてツシマヤマネコの繁殖に成功したときのことを「すくすくうれしかったです。ほっとしたのを覚えています。でも生まれたからと

いってすぐには気を抜けないので、状態が落ち着くまでずっとドキドキしていました」と振り返りました。

繁殖については大きなプレッシャーを感じていたそうです、その理由について「昨年、福岡と佐世保の動植物園に繁殖適齢期のツシマヤマネコを全国から集めて繁殖事業に取り組みましたが、福岡の方が先に成功したので、それがプレッシャーにつながったのではないかと思います」と話してくれました。

「4年目にして初めての成功だったので、本当にうれしかったです」と目を輝かせて振り返る村山さん。昨年の成功が大きな一歩となり、次の取り組みへの自信につながったようでした。次回のうれしい報告が期待されます。

取材日 5月19日



(写真右) 昨年5月に森きららで初めて繁殖に成功し、生まれたツシマヤマネコの2頭の子ども。現在、京都と名古屋の動物園で元気に暮らしています。(写真左) 森きららで現在見ることができるオスの「やまと」。いつも元気いっぱいです。



お嫁さんは おてんばさん

キリン担当

飼育員 由藤 綾

九十九島動物園に15年間勤務している由藤さん。以前にもキリンの飼育を2年程経験しましたが、現在飼育している2頭については4月に担当になったばかりです。

キリンは人に対して好き嫌いがあるそうで「飼育は誰にでもできる仕事ではないので、とてもやりがいがあります」と由藤さん。「普段は見る事ができない行動やいろいろな表情を見ることができずし、めったに鳴かないキリンの鳴き声も一度だけ聞いたことがありますよ」と話します。ちなみにウシみたいな鳴き声なんだそうです。

昨年3月に同園にやって来た「ハヤト」のお嫁さんとして3月に「いと」が来園しました。2頭の性格は「いとは好奇心が旺盛で自分から人に近づいていくことも多いですが、キリンはも

ともと警戒心が強いので、驚いて走り回ったりすることも結構あります。ちょっとおてんばですね。逆にハヤトは神経質な性格です」とのこと。

対照的な性格の2頭のようにですが、仲はとも良いそうです。「いとハヤトのことが大好きで、姿が見えないとパニックになることもあります」と教えてくれました。

キリンの繁殖については適齢期となる3年後を目標としており、「その頃になってみないと分からないですが、仲は良いので相性も良いんじゃないかと思っています」と由藤さん。おてんばさんと神経質な2頭の今後の展開がとても楽しみです。

取材日 5月19日



オスの「ハヤト」(5歳、左) とメスの「いと」(1歳、右)

佐世保生まれの子どもたちに会いに行こう！



レッサーパンダ(左)

昨年初めて繁殖に成功し「レン」と「みかん」の間に2頭の子どもが生まれました。現在、展示場にはレンと子どもたちが交代で出ています。写真は昨年7月に生まれた「レモン」(上)と「ライム」(下)

フンボルトペンギン(右)

昨年生まれた「さくら」はスポットガイドの人気者で、右翼に赤、左翼に白のバンドを着けています。陸に多いので、すぐに見つけることができます。



カノコユリ

九州西部の海岸や中山間地の草原に分布するユリ科の植物です。平成14年に佐世保市の「市花」に指定されており、市では絶滅危惧ⅠB類に指定されています。同園では、日本植物園協会から「植物種多様性保全拠点園」の認定を受け、カノコユリをはじめとした希少植物の保護に取り組んでいます。園内のピオトープエリアで、7月中旬から下旬にかけて美しい花を見ることができます。



無料シャトルカー運行中

4月から「森きらら」と「パールシー」の間で「無料シャトルカー」を運行しています。定員は9人で、10時30分から16時30分までの間に30分間隔で運行しています。どうぞお気軽にご利用ください。

佐世保の動植物をベースに市の職員として30年間動植物園に勤め、4月に新たに就任した佐伯園長。園の運営は「佐世保のことが何でも分かる動植物園づくり」を目標に掲げています。

「市内に生息する動植物をもっと展示したいですね。タヌキやキツネ、植物でいうと方エテ類などです。それに伴って市内の動植物について何でも話すことができる職員も育てたいと思います」と目標を語り、「飼育員がソウヤキリン、



ライオンなどについて知っているのは当たり前のこと。それよりベースとなるのは佐世保の動植物だと思えます」と語気を強めました。

命をつないでいく取り組み 九十九島動植物園では「種の保存」や「環境教育」などにも力を入れていきます。

種の保存とは「動植物たちの命をつなぎ、絶滅させないための取り組み」です。同園では以前から動物の繁殖や希少植物を保護するさまざまな活動

に積極的に取り組んでいます。園長は「長崎県の財産であるツシマヤマメノコの繁殖にもっと力を入れたいですね。県内の希少動物を飼育しているという自覚を持ち、啓発活動も積極的にやっていきたいと思います」と意気込みを語り、「市内や周辺地域についての知識を深め、発信していくことが大切だと思います」と思いを述べました。

環境教育については「動植物園は子どもたちが実際に動物や植物と触れ合い、環境について学べる大切な場所になっています。そうしたことも、この園の大切な使命の一つです」と話しました。



憩いと癒やしの場所に 多くの人が気軽に来園できる園を目指している園長は「市民の皆さんの憩いの場として、もっと利用してほしいですね。動物や植物に癒やされながら散歩して、気分良く帰ってもら

えらうような場所になりたいです」と抱負を語ります。

今後については「まずは見た目で『変わった』と思ってもらえるように施設の整備などを進めながら、スタッフ一丸となって、市民の皆さんに喜ん

でもらえるように、さまざまなことに全力で取り組んでいきたいと思えます」とのこと。これまでの経験を生かした、園長の理想とする動植物園づくりが期待されます。

取材日 5月19日

カフェ&ショップ
がリニューアル!!

モリ カフェ
mori cafe
営業時間=10時30分~16時
(15時30分オーダーストップ)



店内は木のぬくもりが感じられる落ち着いた空間です。キッズスペースも用意してあるので、子ども連れでもゆっくりとした時間を過ごすことができます。メニューはパスタやカレー、お子さまランチなどです。自然に囲まれたカフェで、おいしい食事を楽しんでください。テイクアウトできるメニューもあります。

ズーショップ キララ
ZOO・SHOP Kirara
営業時間=9時~17時15分



動物や植物をモチーフにしたぬいぐるみやお菓子などを取りそろえています。動植物の写真シール付きのお菓子やオリジナルのTシャツなど、森きららだけで販売しているグッズもあります。ショップ内でアイスクリームも販売していますので、暑い日の来園時にはどうぞご来店ください。

パクッとネバネバ 虫食う植物展

夏のおすすめイベント!



とき 8月1日(土)~31日(日)
ところ 「森きらら」植物観賞温室
※期間中の日曜14時、「わくわく夜の動植物園」開催日(8日(土)、13日(土)~16日(日)、22日(土)、29日(土))の14時、19時には、食虫植物スポットガイドやハエトリソウの捕虫観察会を開催します。
ハエトリソウ(写真)
アメリカの東海岸に分布し、観賞用としても人気が高い植物。英語では「Venus Flytrap」と呼ばれ、女神のまつげという意味があります。2枚の葉の間に虫を挟んで捕食します。

記事に関する問い合わせ 九十九島動植物園 ☎28-0011